

公衆衛生の リーダーシップ

地 域保健法が成立した 1994(平成 6)年から 20 年を経ました。今や、多くの公衆衛生関係者は市町村行政で働くようになっていきます。政令指定都市の保健所に加え、中核市の保健所が増えています。

この間に最も大きな影響を受けた職種は保健師です。一般行政組織の中で保健師は公衆衛生のアイデンティティを保ち続けることに努力が必要な時代となっています。市町村の行政事業に追われ、漫然と仕事をしていることでは住民の公衆衛生ニーズに対応した活動につながらず、保健師のアイデンティティが問われる難しい状況におかれているようにみえます。

現代社会においては、人々の健康問題は生活習慣病に代表されるように人々の生活行動の影響力が大きくなっています。身近な地域レベルで健康問題を解決する力を高めていく必要があります。その意味では地域保健法の方向性は不可避なものと思われます。上下水道や不衛生など社会環境などの健康影響要因については解決されてきました。現在は人々の個々の社会経済要因と生活習慣が健康を規定する要因として比重が高くなっています。

つまり、保健医療関係者の力だけでは解決できない健康問題が多くなってきています。地域の人々、社会の様々な分野の人々、また保健行政以外の行政部局の人々の力を結集しないと健康問題が解決できない時代となっています。公衆衛生関係者には今まで以上にリーダーシップが求められてきていることから、企画させていただきました。



イラストレーション：ペドロ山下